

2022年5月**日

2021-22年度
第2回 全国 RA 委員長 及び RA 地区代表会議
報告書

日 時 : 2022年4月23日(土)
場 所 : ZOOM
: RIJYEM ホスト事務局 AP 日本橋 6F
登 録 料 : 無料
最終登録者数: ZOOM 登録 124 名 / 対面参加 8 名

次 第

(敬称省略)

司会: RIJYEM 研修部門委員 岡田 雅隆 (D2760)

- 14:30~ ZOOM 受付
14:55~ 開催5分前諸事お知らせ
15:00~15:05 開会挨拶 RIJYEM 副理事長 水野 功 (D2750)
- 15:05~15:15 報告事項
① YPLI (青少年奉仕活動の人格権特約付売種責任保険) について
保険管理担当 津留 起夫(D2790)
② 第34回全国 RA 研修会(3/26 開催 D2680 主催)報告
・地区 RA 代表会議について 地区 RA 代表 阪本 渚子(D2680)
・地区 RA 委員長会議について 実行委員 田中 賢一(D2680)
- 15:15~16:15 分科会 (9分科会)
ファシリテーターと記録発表者
R1 遠洞一輝 (D2520RA) / 中川雄策 (D2500RC)
R2 相場弘介 (D2560RA) / 渡辺浩子 (D2530RC)
R3 春木優杏 (D2580RA) / 本間啓介 (D2560RC)
R4 生子哲男 (D2620RC) / 遠山明良 (D2580RC)
R5 山本有輝 (D2620RA) / 岡本政明 (D2650RC)
R6 伊藤勝彦 (D2660RC) / 間石成人 (D2660RC)
R7 阪本渚子 (D2680RA) / 田中賢一 (D2680RC)
R8 佐々木浩之 (D2690RA) / 末松孝一 (D2700RC)
R9 吉川佳佑 (D2820RA) / 石田 隆 (D2780RC)
- 16:15~17:00 分科会報告 (9分科会*5分) 記録係担当
17:00 終了

開会挨拶

RIJYEM 副理事長（RA 支援プロジェクト担当理事）
水野 功（D2750）

皆様、改めましてこんにちは。ご紹介いただきました水野でございます。最初にお断りしますが、本日鈴木理事長は財団関係の仕事でこちらの会議に出席することが叶いません。代わりに私からご挨拶をさせていただきます。

先般の2月6日全国 RA 委員長会議の際にもご案内させていただきましたが、日本のロータリー100周年実行委員会からの提言を受けて RIJYEM はロータリー青少年活動の支援活動を青少年交換に限らず広げてプラットフォームとして活用していただくように今動いているところです。今回もその延長線上で第2回の全国 RA 委員長及び地区代表会議を開催していただいております。

先ほど津留さんが事前にお話ししていましたように RA が RI の構成員となりました。次年度から様々な変化が出てきます。ひとつは人頭分担金が 7/1 から RA も払うこととなります。学生は5ドル、社会人は8ドルという形です。またグローバル補助金も使えることになりまして日本の RA、RC の現状等々を考えますと、相当ギャップがあるかなと思っております。本日画面上にガバナーエレクトの方々、あるいはガバナーの方々がたくさん参加されていますけれども、一昨日、昨日とクラブ活性化セミナーにガバナー、エレクトの方々が出席いただきまして RA のことにつきましても、学びの場が提供されました。

終わりました2月の国際協議会でも大きな話題としてひとつは DEI をどう地区、クラブでやっていくか。もうひとつはこの RAC を次年度から RC として対処していくかということが大きな議題になりました。分科会で私は国際協議会の RI 研修リーダーサポートチームの一員として議論を聞かせていただきましたが各ガバナーエレクトは相当苦慮していることがよく伺い知れました。一番大きな問題はどのように自立をはかっていくことが議題に上がっていたと思います。

今日は分科会に分かれて三つのテーマでお話をさせていただきますが、率直に意見交換を全 RA 代表の方々としていただきまして、次年度に向けての準備していただければと感じております。是非率直な意見交換をしていただきたいと思いますと思っております。

ジェニファージョーンズ RI 会長エレクトは国際協議会の席でこのようなことを RA について言っております「ロータリー公共イメージコーディネーターに RA を任命する、または RA の数人を RI 会長代理として地区に派遣する」ということを仰っておりまして、我々日本のロータリークラブ、RAC から見ると非常にギャップがあるところだと思いますが、その辺を踏まえながらご議論いただきますよう開会挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

報告事項①

YPLI（青少年奉仕活動の人格権特約付賠償責任保険）について

RIJYEM 保険管理担当
津留起夫（D2790）

RA の賠償責任保険を第 1 回目にしましたが、その結果が出ましたのでご報告いたします。RA の年間保険料は会員 70 円で決定しております。ただし RA の会員数を特定しないといけないので今のロータリアンについては毎年 1 月末時点の会員数になりますので、RA 会員数も 1 月末の会員数で設定させていただきます。

保険の概要につきましては RAC 会長、RA 会員、RYLA 委員会については今まで当然保険に入っておりましたが明記が抜けているご指摘をいただきましたので、改めて契約の中に入れました。それまでは青少年活動の委員の中に RYLA が入っていたということで、それを RYLA 委員会と明記することにしました。

注意がございますロータリー地区委員会、つまりロータリアンと RA 会員、つまりローターアクターの間で起こったパワーハラスメントとかセクシャルハラスメントにつきましては補償ができなくなっております。理由は、ローターアクトは青少年プログラムではなくなりました。RI の設定ではローターアクターは若い成人（ヤングアダルト）となっております。青少年奉仕活動におけるパワハラ、セクハラについての補償ですでお間違えの無いようにしてください。ロータリアンとローターアクターの間で起こるトラブルにつきましては RI のロータリー章典に定めている成人に対するスキーム（手続き）がありますので、それに従うことになります。以上、ローターアクト向けの青少年奉仕活動における賠償責任保険の説明をいたしました。ありがとうございます。

報告事項②

（3/26 開催 D2680 主催）第 34 回全国 RA 研修会報告 地区 RA 代表会議について

ローターアクト地区代表
坂本渚子（D2680）

こんにちは。D2680RA 今年度地区代表の坂本渚子と申します。3/26—27 に第 34 回全国 RA 研修会を兵庫 D2680 がホストとして開催いたしました。RA の日本の全国大会のようなものなのですが、その中で全国代表者会議を合わせて開催いたしました。それについて報告いたします。

RA 全国代表者会議というのは RA の本年度各地区代表、地区幹事、代表エレクト、代表地区幹事エレクトが各地区 4 人ずつ集まって合計 100 人程度が集まって問題点や今後の方針について話し合う会議です。

今回の代表者会議の議題として挙げたことは、次年度、次々年度の第 35 回、36 回の全国 RA 研修会の進捗報告になりました。審議事項として今後このような RA の全国代表者会議を開く際に予算書、決算書のフォーマットを全国で統一するべきではないかということが審議で上がっております。それに付随して RA の全国研修会を立候補する際には通常、研修会は 2 日間に渡って開催されていましたが、それをどの地区でもホストできるように基準を多様化した方が良いのではないかと

ということも協議に上がり、研修会を 1 日だけにするのもありなのではないかということと、全国 RA 研修会はなくして代表者会議だけを行うというのもホスト地区が選択することができるという事にしても良いのではないかと案がありました。

RA アジア大会が毎年ありましてその日本の取り纏め地区を今後、輪番制にすることを推奨する等、全国代表や地区幹事と話し合いを行いました。

地区 RA 委員長会議について

全国 RA 研修会実行委員
田中賢一 (D2680)

先ほど阪本代表が仰っていた全国 RA 研修会の一環として全国 RA 委員長会議を開催いたしました。ご参加いただきました各地区委員長の皆様ありがとうございました。

内容はまず 30 分間 D2680 の滝澤功治アドバイザーから RA の歴史、過去の規定審議会を振り返りながら RA の地位の変化についてお話いただき、RA の問題点、特にロータリーが RA にどのような支援をしていくのかということについての問題点をご指摘頂きました。

二つ目は RA 委員長会議で協議を行いました。RA が RI の一員となったことで RA の意識は変わったのかというテーマでした。いろいろな意見が出ましたが、この会議の中では RA C は提唱クラブとの関係性がいまだに強いのであまり意識は変わっていないのではないかと意見が多かったと思います。

またロータリーは RA のことを分かっていない、RA はロータリーを分かっていないという現状がありますのでその理解不足を埋めるためにさらに勉強していくべきではないかという意見がありました。

二つ目のテーマはロータリーと RA の連携の問題です。ここでは人頭分担金の話が多く出ました。具体的にどのように徴収するかという問題。

RA に人頭分担金を実際に負担させるのかという問題が協議されました。多くは地区ないし提唱クラブが人頭分担金を負担するという実状が報告された。RA の地区への参加について、複数の地区は RA に地区委員となっていていただいているところもあった。

ロータリー章典通りに RA 委員会委員長ロータリアンとローターアクターが共同委員長になっている地区もあった。相互の連携の問題については正にロータリーとローターアクターが協議して決めていく問題であろう。この後の分科会では正にその協議の場になればいいなと思っています。

以上ご報告いたします。ありがとうございました。

〜〜 分科会報告（9グループ）〜〜

テーマ1) これまでの活動と今後の活動にどのような違いがあるか。

テーマ2) 各地区の RA 活動における問題点

テーマ3) 今後の全国 RA 合同会議の在り方と予定

(8:00)

■R1 報告 中川雄策様 (D2500)

ローターアクターが2名の予定でしたが、1名欠席で、Rtnが5名、計6名でした。

テーマ1) について。

まだ始まったばかりなのでよく分からないが2年間のコロナ禍で奉仕活動や交流が出来ていないというのがほとんどの方から出てきた言葉でした。今後については人頭分担金のためにマイロータリー登録の整備をしているという意見と、全研に立候補しているので会員拡大を行っている。

地区 RA 委員会を青少年奉仕プログラムから外れたということがあり単独の委員会にしたという地区もあった。

テーマ2) について。

人員拡大、クラブ数の減少が共通の課題というふうに聞いておりました。アクティブに活動できる人の補佐ができる人員が必要である。年齢制限を撤廃されたということで卒業した会員に戻ってきてもらうという活動を行いたいという意見があった。魅力的な活動が必要ではないかという意見。役所の職員に声をかけて役所の職員は外部との交流を望んでいるのでそれで上手くいったという事例があった。ボランティアカがある人とアクターをどう結び付けていくかという課題になるのではないか。

テーマ3) について。

分科会にアクターが少なかったので、もっと参加してもらいたい。ハイブリッドも良いがリアルで活発な意見交換をしていくのも良いのではないかという意見。情報の共有の場としては良い。会議の前に自分たちのクラブ、自分たちの地区でもっと情報共有していくのがまず先決だろうという意見。このグループ1では北海道、東北が固まっていたが、西日本のアクターの活動が非常に活発だと聞いたので、近場だけではなく広域でシャッフルしていただいた方が活発な意見を聞けたり、話しることができて良いのではないかという意見。

■R2 報告 渡辺浩子様 (D2530)

メンバーは地区 RA 委員長、副委員長、RA、ガバナーエレクトというバランスの良いメンバーでした。

テーマ1) について。

ローターアクターから何をすべきか、どう変わったかを理解するところから始めなければならないということで、違いというよりは情報共有から始めていきたい。立場の変化では一気に変えるのは大変難しいのではないか。地区委員会に参加するなどそういう小さいところから経験を積んでスタートをしていくことで違いを受け止める。

D2580は2年かけてかなり意識を皆さんに植え付けてロータリアンもローターアクトも植え付けていたのであまり違和感がなく大変上手く進んでいるということでした。RA委員長で会長幹事会がつい先日あったそうですがどう変えていくかはお互いに悩んでいるということでコロナ禍のために活動も、親睦もできなく、会員増強も成し遂げられない中、これからどういうふうにやっていくか、急激な変化をどう受け止めてやっていくか考えていきたい。組織の在り方を皆で考えていこう。ガバナーエレクトからローターアクターのスタンスがいろいろなのでエレクト

の自分も悩んでいる。やはり Rtn がサポートしていくことで時間をかけなければいけないだろう。
RC と RAC の違い・役割を明確にしてファンドレイジングであったり元気な RAC を参考にしていく。
PETS、地区協にも参加していただくなど少しずつ違いを取り入れながらしているということでした。

テーマ 2) について。

これは皆さん同じように会員減少であったり、Rtn への理解がまだ進まないことがあり、アクターから自分の RAC に魅力を持っていない、やはり活動が減少してしまったので今後どうやって行ったらよいかという意見があった。問題点としてはそういうところが大きいがローターアクターの問題というよりも Rtn の問題のほうが大きいのではないかと意見もあった。Rtn のほうが意識を変えて、サポートしながら共に青少年関連の活動促進のために学友と横の繋がりを刺激として与えたり、そういうことをやっていくのが大事なのではないかと。問題点はあるけれどもこうすればいいのではないかと前向きな意見がたくさん出されました。

テーマ 3) について。

全体の意見としては活動が大変活発な地区もあるんだなという差が分かったり、情報共有ができたのは大変有意義な会議であったという意見。やはり意見交換をオンラインですることによって地区内で対面だとお互い大変熱くなくなってしまっても、ちょうどいい距離でインプットもできて大変良い。

是非 2 か月に一度くらいやっていただきたい。たくさんの意見を聞きたいということでした。ZOOM ミーティングはこういう時に大変有効であるという意見。全国会議での意見交換は大変良いが、その前に自分の地区で Rtn とローターアクターが会議をして、協議をしたうえで全国の意見交換があるといいのでは。

印象的だったのが活発な RAC は提唱 RC の会員がかなりマメに顔を出している。活発で元気があってファンドレイジングが上手くいっている。対して Rtn が丸投げのところ、顔を出さないところに限って元気がなくなって活動もなかなかしにくいという言葉が印象的でした。ただ皆さんの意見交換、共有が出来て次年度に向けてやる気が出てきたようです。

(7:45)

(11:56)

■R3 報告 本間啓介様 (D2560)

テーマ 1) について。

・ローターアクトを支援する立場である。まだしっかりこない。RA から恐れ多いという意見がある。RA が地区に参加していくようにするのが良いのではないかと。Rtn とローターアクターの交流がないので例会を来訪して交流をしてお互いを知ることから始めたい。今後どのようになるのか見当がつかない。RC と RA が同等になると言われてもよく分からない。

・コロナで RA 行事がなくなったがこれがコロナのせいなのか、RA の行事がなくなってしまうのか。地区行事に組み込むのか。今まで通りやったらいいのか分からない。

・PETS や地区協などに RA を呼んで一緒にやっている。相互の関係は良い。RA、RC 同等と言われてもピンとこない。

・RI が何を考えているのかを理解することが大事。RC の規制を取っ払ったロータリー活動することを期待している。RI の目標は RA を 100 万人にする。Rtn と同じかそれ以上の組織にするという考え方だということです。RA は別の組織にして自由な奉仕活動をさせたい。RA はまず自分たちの意識改革からスタートしなければならない。ロータリーに支援をしてもらって活動をするので

はない。RAの奉仕活動はローターとは別に、自由にしたい。

- RCがサポートしていくべきだがRLIにも参加している。
- RACは昼間仕事をしているのでRACのほうから歩み寄って頂きたい。

テーマ2)

• RAより質問…全国RAC会議をやっていききたいがどのようにしたらよいか？
• 近藤AD回答…RIJYEMを使ったらよいです。研修部門委員がいるのでお手伝いすることが可能。RIJYEMは全国に社員がいるのでガバナーにもつながっている。財団の使い方などスキルアップが必要になってくる。ローターでなくてもボランティアは出来るがRACがローターと同等になることによって財団やローターのブランド力を使ってもらいたい。

補助金について。グローバル補助金はRC単位であるがRACも積極的に使ってもらいたい。

(17:07)

■R4報告 遠山明良様 (D2580)

11名登録されていたが実際の出席は4名(RA委員長2名、RA代表2名。)のみ。議論は捗ったがやや偏ったような形になった。

テーマ3)について。

今日は某地区の年次大会でそれとぶつかったので日程の調整がうまく出来ていなかったなということがある。全国研修会にも出ましたがトピックが被ってしまっていて、議論が同じものを繰り返していることになっているので全国のガバナー会とも連携をRIJYEMのほうで執ってもらっていただき今後一本化していくことをお願いしたいという意見があった。

ZOOMで情報交換できるのは大変ありがたいが、この時期はいろんな行事が重なっているので日程調整が難しい。今後の在り方としてはもう少し考えていただきたい。

テーマ1, 2)について。

似たような話になってしまったので、まとめて話します。コロナで活動ができていない。RAのほうも出来ていないという地区と、RAは活発に活動しているがローターのほうが止まっているという意見に分かれた。私の地区でもRAはほぼコロナ始まってすぐにオンライン活動に切替えて止まることなく続けましたが、RCのほうが最近まで止まったままで交流ができていない事態。RIもRtnの動きを補完するために若いRAを引き揚げてきたのですが、これについてRAのほうから若干の疲弊感が出ている事もローター側は認識すべきであろう。RAは学生を中心としていけば宜しいですが、地方は企業派遣が多らしく企業によって行動制限をコロナで受けていて企業派遣の人たちの活動が鈍い、退会していくということがRA側にもあるという意見。

RAについてRIはやりがいを与えていけば活性化していくと考えているかもしれないが、日本社会では難しいのではないかと、企業のほうが若者の活動に対して理解がないのではないかと。一般のアクターは自分の時間を作ることが難しい。私の地区も昨年度からRA委員会にアクターを入れたり、他の委員会に参加したり、地区幹事に登用もしています。ただしほんの一部の人しか参加できない。サラリーマンは昼間のローター行事に参加できない。RAを入れているところはなるべく平日の20時半から21時くらいから始めたり、土日したりしているが、これ以上はRAに役目を負わせると地区代表もなかなか決まらない状態が多いので増強で苦しんでいるのではないかと。地区活動も難しくなる事は想像に難くない。RA委員会と地区ガバナーとがよく話し合った上で進んでいかないと危ないのではないかと。

人頭分担金等の意見はでましたが時間の関係で、以上に絞らせていただきます。

(24:40)

■R5 報告 岡本政明様 (D2650)

ファシリテーターを務めてくれた D2620 の山本代表が素晴らしい仕切りをしてくれたので活発な意見交換ができたと思います。

テーマ 1) について。

地区委員会に参加しているようですが、基本的に活動自体が大きく変わっているということは今のところはない。変革をしている途中なので大きな違いは感じていないようです。

テーマ 2) について。

問題点として多かったのが人数が少ない会員減少が一番の大きな問題である。その中でロータリーのほうから新しいクラブを作りたいという要望もあり余計に忙しくなっている。年齢制限がなくなったので 40 才以上の地区役員についてどのように考えたらよいか分からないという意見。Rtn がアクトの問題を認識していないことがまず問題点なのではないか。人数減少に伴って代表や地区役員が決められないという事がある。アクターに求めていることが多すぎて目の前の事でいっぱいになっている事が多いのもっと楽しんで活動してほしいという意見。対面での活動がコロナで少ないのでお互いの人間性が分かり難いので活動しづらいという意見。マニュアルがあるけれども古いままのため上手く活用できないのでこのような皆が集まる機会をつくって新しいやり方を探っていきたい。

アクトの問題点は Rtn が理解していないというのが大きい。ロータリーを勉強する機会がなかなかないので具体的にどうしていったらよいか分からない。大学基盤のクラブについては普通のクラブとだいぶ活動内容に違いがあるのでやり難いという意見。

テーマ 3) について。

基本的にこういう会議に出てくるアクターはそれぞれのクラブの役員なのでお互いに理解するために役員以外のアクター達を是非こういう会議に出席する機会をいただいて勉強がしたいという意見。ロータリーの説明をしてほしいし、もっと知りたいという意見もあるがサラリーマンの方は時間が取れないので両立することが難しいという意見。リアルで会ってこういう話し合いがしたいという意見。

ZOOM という便利なツールがあるので活用して離れた場所の人と活発に行うべき。一方的な会議でも良いので色々な情報が欲しい。

保険について話がありましたが途中経過だけを聴いただけで具体的な導入方法などを知りたかったという意見。欧米と比べると日本はやり方が違うというか、国によってやり方が違って来るので、日本らしいやり方を考えて活動したらよい。アクター達は素晴らしい方が多いのでこれからも活発に活動をして頂きたい。

■R6 報告 間石成人様 (D2660)

出席者 6 名 (5 地区) + 記録者

PDG と地区ローターアクト委員会の委員長など (当分科会はローターアクターの参加なし)

テーマ 1) テーマ 2) について。

1. 地区内に RA 計 15 クラブがあるが、既存の 14 クラブはいずれも提唱クラブで合計約 150 名。人数が減少傾向で、会員数 1~2 人のクラブもあり、これから活動を指導していく段階。
2. 他方、地区内に 1 年半前に設立された独立クラブは、会員数 500 名を超え、地域で清掃活動など社会奉仕活動を中心に活動している。専門学校生が構成員で 18 歳~20 歳が中心、理事長がロータリアン。提唱クラブなしで生まれたのは、活性化の意味ではありがたい。このクラブでは、生徒は卒業すると就職するが、地区内で就職する場合は引き続きローターアクトクラブに加入するよう勧めている。

3. 地区内に RA5 クラブがあるが、活発なクラブは 1 つのみで、県庁所在地以外は若い人も少なく、クラブを維持するのに窮しているのが実態。ただ、最近、IA 出身者が大学で新たに RA クラブを設立した例も見られている。
4. 地区内の RA クラブの年齢制限は、各クラブに任せている。30 歳まで、35 歳まで、年齢制限撤廃などさまざまに分かれている。活動は提唱クラブによって温度差があり、提唱クラブが力を入れているクラブは RA の人数も多い。
5. 地区委員会メンバーに RA 代表などを登用するなど、ともに組織を作っていくよう努めている。地区協議会にも入ってもらい、ロータリアンと並べるレベルまで身につけてもらうよう教育している。
6. 地区内は RA6 クラブ、計 30 数名であるが、元気がない。今後どうしていくかまだ方向性が見えない。ロータリアン側に RA と同じテーブルに就くことにアレルギーのあるメンバーもおり、ロータリアン側がまだ受け入れる状況にないのが現状、その調整がこれからの地区委員長の仕事。
7. 地区内には RA6 クラブで約 60 人。歴史のあるクラブであっても会員 1~2 名のクラブもあるので、全体で一つのクラブというイメージで捉えて、合同例会を開き 1~2 名のクラブをカバーしている。
8. RI は 2030 年を目処に RA 100 万人へと現 24 万人の 4 倍を目指しているが、その具現化には提唱クラブの下での RA クラブではなく、その地区のさまざまなクラブの下での RA クラブでなければならないと考えている。しかし、提唱クラブ以外は RA クラブの存在すら知らないような状態であり、いろいろな形で提唱していったら RA クラブを活性化していく必要あり。
9. 地区内に RA26 クラブがあるが、3 分の 1 は 10 名以下の少人数。実働も半分以下で存続が危ぶまれる状況。少人数のクラブも企業派遣で活動していて、やめるにやめられず苦勞して活動しているという面もある。地区としては、存続危機クラブの支援のために、活動しているクラブとの合同例会や、地区委員が例会出席して、他クラブとの合併など存続策について話をするなどしている。定款細則が未整備のクラブにはサンプルを示して整備済み。人頭分担金の支払いについても RA 負担や提唱クラブの支援などの選択肢を示して指導している。
10. 当地区ではグローバル補助金を活用した企画を勧奨しており、ロータリークラブと共同での企画にいくつかの RA クラブが取り組んでいる。グローバル補助金の提唱資格獲得のために、財団委員会担当が RI 事務局と折衝し、地区の判断でできるものとそうでないものを峻別し対応してきている。
11. 地区の規定にはまだ RA クラブの補助金に関する規定がない。規定の改定を検討中。
12. 会員数の少ないクラブへの対応として、地区が預かって地区運営のクラブとすることも検討している。
13. RA の人数をどう増やしていくかのアイデアとして、RA 適齢期の子（あるいは孫）のいるロータリアンを梃子にして、この子やその友人、同僚を誘ってもらうことを何年かを視野に入れつつ考えている。
14. 地区内の RA は現在も法人会員の方が多い。従業員を誘って参加してもらってきたが、最近の若い者は参加しないと言われる。会社の指示で強制することの問題もある。
15. 法人会員は、大企業はそれでも参加が得られるが、中小は若手がいなくて続かないところもある。
16. 所属クラブが提唱している RA クラブでは、年齢制限を撤廃して 20 歳代から 30 歳代も対象にして、30 歳代の個人事業主で、JC に入らなくても活動したいという人を対象に会員勧誘している。
17. 会員増だけを目指すのではなく、どうすれば魅力ある RA ができるかを考える必要がある。「誰かがチャンスをくれれば、そこに参加して活動したい」という若者もいるが、参加をする場所がなかなか見つからないようである。ロータリークラブと RA が一緒に活動して、魅力ある社会奉仕活動が見えるようにしていくことで参加できるチャンスを作り育てていくことが必要。

18. RAに地区委員会にも一緒に入ってもらい、企画の段階から共同で参加してもらうことでRAの活動の活性化を図っている。

テーマ3) について。

1. 3月など次年度に近い時期の全国会議は、次年度RA委員長も出席されると意義がある。
2. 全国研修会は、DG、ロータリアン、RAが参加して分科会で情報交換など中身の濃い話ができる。
3. 対面で集まるのは年1回でもよいが、別にセミナーをオンラインで行うなどしていただきたい。
4. RAにとって全研は全国の仲間と会える良い機会。新型コロナ下で研修旅行や海外旅行もできなくなって活動の魅力が低減している。早く日常を取り戻せればよいが。

■R7 報告 田中賢一様 (D2680)

ルーム構成：G、GN、青少年奉仕委員長、RA委員長、地区代表

テーマ1) について。基本的には変わらない。年齢制限撤廃については色々な議論がされているようです。年齢制限で辞められた方が戻ってこられるように年齢制限を撤廃するクラブもあるようであるが多くの場合は、区切りをつけたい、あるいは30才を超えると忙しくなってくるということで年齢制限は維持しているようです。制限を超えられた方はOB、OGとして、あるいはRA学友として活動している形を模索している。

テーマ2) について。ほかのルームのご報告とほぼ同じで、会員減少、クラブの減少そしてリモートの活用による連携が薄くなるあるいは、連絡が取れなくなっている問題が生じているようです。こういう時こそRtnの支援が必要なのではないか、それはRAの自立とは別次元の問題話ではないかという意見。

テーマ3) について。決定事項の報告質疑応答にとどまるべきという意見もあったが、多くは各問題点を解決するために今回のような協議をしてみてもどうかという意見が多かった。RA地区代表も同様の意見だった。このような会議は続けてほしいという意見が多かったが、このような合同会議はRAが主体となって運営したり審議事項含めたり模索したほうがよいのではという意見があった。

■R8 報告 末松孝一様 (D2700)

テーマ1) テーマ2) について。

- ・30才までの年齢制限が撤廃になった事は周知している。しかし年齢制限撤廃は各地区ごとに違う。ほとんどの地区では撤廃しているが30才で一応の定年で35才まで延長するところもある。
- ・規定にあわず、グローバル補助金の申請は無理である。RIJYEM 保険加入金と人頭分担金がどこが払うかまだ決まっていない。
- ・会員は横ばいでクラブ間の合併の話もでてきている。
- ・地区組織ではローターアクトクラブは依然として青少年奉仕委員会の中に入っている。まだ、地区としての考えがまとまっていない。
- ・新入会員が入っても卒業者も多く会員の入れ替えになっておりこれまでと同じ活動をしている。方針転換があったが活動の大きな変更はない。ハラスメント保険の支払い、グローバル補助金の申請がある中で年度の中で大きな変化があるかもしれない。
- ・地区の中でクラブ間で組織している幹事会があり変更点においては周知している。
- ・人数の減少が著しい。地区内7クラブで60名いるが40人に減少した。
- ・クラブ同士物理的に距離が遠い。雪が降ったら移動できない。しかしながら ZOOM 会議に方向転換できている。
- ・20社会社回りをして10名増加した。この際、ロータリアンが協力してくれた。

- ・地区の中で会員増強委員会を結成した。
- ・スポンサーをされてないクラブ向けや会社向けにローターアクトクラブの説明会を随時している。会社向けではロータリアンの入会が増えた。
- ・会員増強につながった事例として SNS からの問い合わせからやロータリアンからの紹介、インターアクトクラブ先生からがきっかけがあった。
- ・提唱していないロータリークラブに卓話に行っている。
- ・インターアクトからローターアクトに入る流れがあったがコロナで活動ができていなくその動きも現在は無い。コロナが会員拡大の問題になっていると感じる。

テーマ3) について。

- ・ロータリアンとローターアクトが話し合う機会が少ないので意識のすり合わせができる場としてよいのではないか。
- ・RIJYEM 主催としてこのようなプラットフォームが出来てよかった。
- ・今後は MY ROTARY から情報もとれるのではないか？
- ・頻度は年に2~4回、もしくは基本1回としても臨機応変に開催してはどうかの意見があった。

<その他>

- ・衛星ロータリークラブとの違いについて議論がありました。

■R9 報告 石田 隆様 (D2780)

テーマ1) について)

- ・次年度の変更に向けて RC 委員会と RA で変更のための話し合いが増えた。 今後の方向性と保険やボランティア誓約書、発展的な話し合いももたれている。
将来の RA に対しプラス思考で考えている。
- ・次年度から変更と言われても変更による環境の変化、RA 委員会メンバーの組織変更、スポンサークラブの理解を得られるように RA の卓話をすすめている。
当面 RA 活動の変更は無いが手続き上の変更がある。 またスポンサーRC 以外への卓話を計画してロータリアンからの理解を得たいと考えている。
- ・RI の決定により次年度から RA が RC と同等になるが、まだ RC、RA とともに模索の状況にあり、直ぐ移行するのは難しいと思う。
長い時間かけて相互理解が必要。 将来は RA に自立してもらえるように意識を変えてもらう必要がある。
- ・RA の強みは他地区との交流を毎月行っている点、SNS による地区代表同士のつながりが密である。次年度も同様にかんがえている。

テーマ2) について。

- ・ローターアクターは働き盛りの世代のため仕事の関係で活動しづらい状況であるが、会員の増強が急務。変更に伴い RA の自立が必要、資金捻出も問題。
- ・RA クラブ会員数が少ないため合同例会を計画している。 RA と RC の交流も今以上に必要になる。
会員増強のために RC 会員の社員を入会をしてもらうような計画的な仕組みも必要である。
- ・今までのようにスポンサーRC からのサポートに頼らないで自立していくために RA の意識改革が必要である。

テーマ3) について。

- ・年3回 4.9.1 月が良い。 RA 地区代表エレクトも参加してもらうようにするべきである。

- ・適時に開催、他地区との情報交換が必要
- ・出来ればリアル会議を開催して欲しい

ご挨拶

TRF・元 RI 理事・RIJYEM 顧問
三木 明 様 (D2680PDG)

今日は後半部分の皆様方のご意見を伺いまして、本当に良い勉強をさせていただきました。ローターアクターも頭を悩ませ、あるいはスポンサーであるロータリアンもご苦労なさっていることがひしひしと伝わってまいりまして、RAC 独り立ちするのは難しいのかなと少し感じました。(2:01) 北海道から沖縄まで地理的な地域性がありますのですべての RA が同じように活動するのはもちろん無理がありますし、その地域に応じた活動を模索して地域のニーズに探った上でそれに対してお手伝いされているのがよく分かります。

RIJYEM がなぜ RA に口を出すのかという疑問の声も時々耳にしますが、全国研究会が毎年ありますが、私が見ている限りではやや報告会的なものに終始しているのではないかという気がしております。

RA 個別の活動を他の地区が学ぶことはすごく大事なことであり、それが次の自分たちの活動のヒントになる。私たちはこんな事をやっている、あなたたちも真似してみてもいいかですか等あっていいと思います。

RIJYEM がこのように関わっていくということは決して上から目線で物を言うとか、RA や RC に対して指示をするという訳では決してなく、スケールメリットをお考えいただければ良いのかなと。例えば、分かりやすい話は保険の事です。個々の地区が保険に入るとなると相当な費用を払わなければならないが、RIJYEM で 34 地区を纏めて動けば保険金は少額で済む、ということもありますし、報告に関してはそれぞれの地区で活動をする費用の調達方法、あるいは活動費用がどういうふうに使われているかという事も RIJYEM で整理できますので、仲良しの RA に「あなたのところどうしてるの？」とただ聞くだけではなくて、RIJYEM で纏めて情報を提供することができますので、利用して頂ければよいのかなと思います。

今年 34 回目の RA 研究会が開催されましたけれどもやはりバックボーンといえますか、次はこの地区でやりましょうかね、というのではなくて、しっかりと組織が動いていかなければいけない。これは RIJYEM ではありませんが、連絡協議会みたいなものを作る、名称とか、あり方とかは今全く無視していただいてもいいのですが、そういうものをしっかりと作って行って未来に繋げていかなければいけないのかなと思いました。

いろんな問題点がありますからこれから整理していかなければならないが、RA も考えてほしい、そしてもっと考えなければいけないのはスポンサーしている私達 Rtn ですし、RC ですし、地区委員会でもあります。いままでと同じようなやり方ではなかなか発展しないのではないかと思います。人頭分担保金を払って、国際ロータリーの加盟クラブになりましたからこれはすごく大きな転換期でありますので、RA が飛躍的に向上・発展するチャンスですので是非これを上手く活用して頂ければ良いのではないかと考えています。

それから、こういった ZOOM のやり方ですが、画面を見ておられますと、かなりお名前だけの方がい

らっしゃいます。せっかくの ZOOM でありますから是非お顔を出して頂きたい。発言者ではなくても、「こういうかたがいるのだな、みんなで頑張ってみようよ」というのが必要ですので、ここに参加されている方は是非 ZOOM にお顔を出して頂きたいと考えております。いま慌ただしく参加して思いついたところはそれくらいです。

人頭分担金ですが社会人基盤が 8 ドルですから日本円で 1,000 円くらい、学生基盤が 5 ドルですから 600 円ちょっとくらいですかね、その費用負担は私の考えでは必ず RA がしなければいけないと思っています。それほど多額でもありませんし、ロータリー理事会でこの金額を決める時には随分と議論がありました。何ドルであれば申し訳ないのではないかと、学生は厳しいよな、という訳でこの金額が決まったわけですが RAC 定款もありますし、ちゃんと RA が認識していただけるようにロータリーのほうからも情報提供して頂ければありがたいと思います。

RIJYEM が関わるというか、お手伝いするという事ですので是非上手に活用していただければありがたいと思います。なんか思い付きで申し訳ないのですが、いま感じたところはそんなところでございます。ありがとうございました。

閉会のご挨拶

RIJYEM 副理事長（危機管理担当）
片山 勉 様（D2660PDG）

片山でございます。RIJYEM の危機管理を担当する副理事長をしております。まずは本日、日程たいへん調整が大変難しい中でのこの会合にたくさんご出席をいただきまして、心から御礼を申し上げます。

私から色々とお話つもりでメモをとっておりましたら、先ほど三木顧問のほうから全てお話を頂きましたので私自身のメモは割愛をさせていただきまして、やはり RIJYEM としての今日の会合の中で会議の在り方についてのご意見も色々とお話しております。そういうものをしっかりと検討しながら、この RIJYEM がプラットフォームを務める会合が今後、より効果的な会合になるように努力をいたします。本日はどうもありがとうございました。